

地下水膜ろ過システムでプラチナ大賞優秀賞 「非日常には日常で対応」を



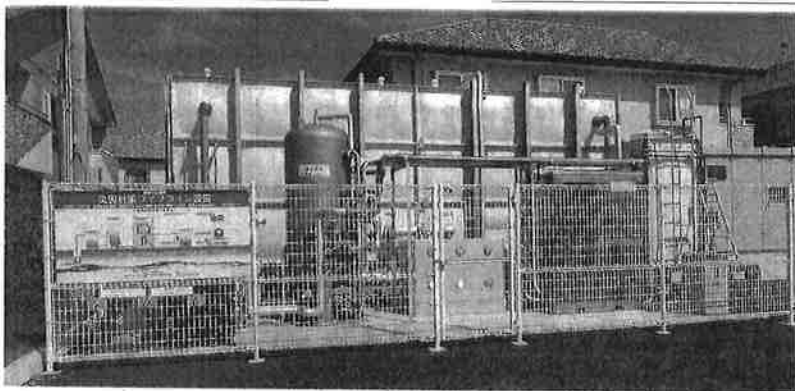
プラチナ大賞で優秀賞を受賞したMCHCとウェルシィ（都内で行われた表彰式で）



渡辺常勤顧問

三菱ケミカルホールディングス（MCHC）とグループ会社のウェルシィ（東京都品川区・富田栄一社長）は昨年、第4回プラチナ大賞（プラチナ構想ネットワークおよびプラチナ大賞運営委員会主催）においてウェルシィが取り組む「地下水膜ろ過システムによる国内外の持続可能なまちづくりへの貢献」で優秀賞を受賞した。

都内で行われた最終審査会でMCHCを代表してアレクサンダー・シオンが「ウェルシィの渡辺愛彦・常勤顧問は、「地下水膜ろ過システムは、平時から稼働し、万一の災害時に備えるもの。つまり、非日常には日常で対応することがコンセプト



武蔵ヶ丘病院（熊本市北区）に設置されている地下水膜ろ過システム

ト。これによりBCP、CSR、経済性、環境保全を提供する」と導入効果を強調した。特に、災害時は電気やガスと違い水道水の代替手段が限られていることから、公共水道と地下水膜ろ過システムによる2元給水体制の構築を訴え続けており、実際、熊本地震では公共水道が断水する中、

地下水膜ろ過システムを導入していた4病院では水を確保して病院機能を維持でき、さらに4病院全てが近隣住民に無償で水を提供。巨大地震に強いことを実証した。

地下水膜ろ過システムの内閣官房国土強靭化推進室が2016年2月に制定した「国土強靭化貢献団体の認証に関するガイド

ライン」に基づき、国土強靭化の趣旨に賛同し、自らの事業継続に関する取組を積極的に示している企業、学校、病院等各種団体を「国土強靭化貢献団体」として認定する制度。これまでも同社は、事業継続に関わる国際規格であるISO 22301の認証を取得するなど、事業継続をマ

に「我々の取組みで、子どもたちの病気を、水汲みのお手伝いが減り、その結果、学校に行く回数が増え、集落の収入も増える。豊かで小さなプラチナ社会の実現に貢献できた」と述べた。

「プラチナ社会」についてプラチナ構想ネットワークは、日本が先進国として直面する人口減少、高齢化、エネルギー問題などの課題の解決と新たな可能性の創造によつてもたらされる豊かで快適な社会と定義している。

「プラチナ大賞」は、イノベーションによる新産業の創出やアイデア溢れる方策などにより自らの課題を解決している自

NEシステムシステムに組み込み非常時にも事業継続できる体制整備を進めてきた。同推進協議会による審査では、事業継続マネジメントの高効率化や実効性が評価された。同社は、地下水を水源とし、公共水道と併せた水源を元化する地下水膜ろ過システムを中心に事業展開しており、今後も事業活動の継続性強化に努めていく。